

第1回 市民と議会の意見交換会

《報告書》



開催日：平成25年5月17日(金) 3会場
 5月18日(土) 3会場
 5月24日(金) 3会場

1. はじめに	1
2. 議長あいさつ	2
3. 意見交換会の概要	3
4. 参加者数とアンケートの結果	5
5. 意見交換会でのご意見・ご質問 Q&A	8
6. 各会場の様子	19

1. はじめに

東近江市議会が初めて開催いたしました市民と議会の意見交換会へ、多くの市民の皆さまにご参加いただき誠にありがとうございました。

東近江市議会では、開かれた議会を目指した改革のひとつとして、この意見交換会を企画いたしました。意見交換会では、平成25年度の予算審議の内容や、3月議会での委員会審査・議決状況に関する議会報告に対し、参加いただいた市民の皆さまから保育・子育て支援、各支所の行政対応、まちづくり、総合窓口のあり方、財政の健全化、教育、交通安全対策などについてご質問をいただくとともに、議会の役割についても多くのご意見をいただきました。

意見交換会において、実施したアンケートの結果では、意見交換会の開催について、「評価する」が59.4%と、6割近くの方に高い評価をいただく一方で、「どちらでもない」とされた方が32.6%、「評価しない」が2.4%とマイナスの評価もいただきました。

議会報告会の内容については、「わかりやすかった」が52.8%、「わかりにくかった」が4.2%の結果でした。また、運営や答弁についての厳しいご意見も頂戴いたしました。

継続を求める意見も多くいただき、アンケート結果等を踏まえ、今後の意見交換会の開催方法などについて検討し、より市民の皆さまに信頼され、開かれた議会となるよう取り組んでまいります。

この度、市民と議会の意見交換会の結果を報告書にまとめ、市民の皆さまに報告するものです。会場でいただきましたご質問・ご意見について、各担当部と協議を行い、要旨として「Q&A形式」でとりまとめました。不十分な点多々あると思いますが、ご理解を賜りたいと存じます。

なお、市民と議会の意見交換会に関するご意見・ご要望がございましたら、市議会事務局までお申し出下さるようお願い申し上げます。

平成25年9月25日

東近江市議会

2. 議長あいさつ

【開会にあたって 議長あいさつより】

本日は、何かとご多用の中、また夜分お疲れのところを「市民と議会の意見交換会」にご参加を賜り、誠にありがとうございます。

また日頃は、私たち市議会に対しまして、格別のご支援・ご協力を賜り、重ねて厚くお礼申し上げる次第でございます。

さて、東近江市も1市6町が合併して早8年が過ぎ9年目を迎えております。この間、1日も早い市域の一体化を図るべく努力をしてきたところでございますが、厳しい財政状況の中で課題も多く、今しばらく時間がかかるのではないかと考えております。



合併後の課題として、インフラ整備をはじめとしていくつか挙げられますが、その中のひとつに、「行政や議会の情報が届かない。市民の声が行政に届きにくくなった。」とのご意見をよく聞きます。

このことから、私たち議会といたしましてもこれに答えるため、現在実施しております広報紙・議会だより・ケーブルテレビなどによる情報提供や、自治会長会議の場などにおける地域要望の聞き取りに加えて、今回、市議会の新たな活動として、議会の審議内容の詳細報告や市民の皆さまからの生の声を聞かせていただく場として意見交換会を開催することにいたしました。

市内に9つあります中学校区単位で実施をいたしますが、何分にも初めてのことでありますので、不手際もあると思えますし、ご期待に添わないこともあると思えますが、皆さまのご意見をお聴きする中で、回を重ねるごとに内容を充実して参りたいと考えております。

本日は限られた時間ではございますが、有意義な意見交換会となりますよう皆さま方のご協力をお願い申し上げ、開会にあたりましてのご挨拶とさせていただきます。

3. 意見交換会の概要

1. 開催日時と会場

○平成25年5月17日（金）午後7時30分から

1班 蒲生コミュニティセンター

2班 玉緒コミュニティセンター

3班 永源寺コミュニティセンター

○平成25年5月18日（土）午後7時30分から

1班 平田コミュニティセンター

2班 みすまの館（湖東）

3班 五個荘コミュニティセンター

○平成25年5月24日（金）午後7時30分から

1班 八日市コミュニティセンター

2班 愛東コミュニティセンター

3班 やわらぎホール（能登川）

2. 班編成

1班 畑 博夫・大澤 貢・大洞共一・田郷 正・
周防清二・丁野永正・岡崎嘉一・村田せつ子・
竹内典子

2班 中村 肇・澤田康弘・横山榮吉・石原藤嗣・
西澤善三・西野哲夫・山中一志

3班 寺村茂和・河並義一・野田清司・北浦義一・
杉田米男・前田清子・大橋保治・市木 徹

議長 川南 博司

副議長 加藤 正明

3.内 容

① 開会

② あいさつ 議長 または 副議長

③ 議会報告と議会説明

- ・平成25年度当初予算（骨格予算）と6月補正予算案（政策予算）の説明（今年度は2月に市長選挙があったため、例年より規模が大きな政策予算が6月に審議されました。）
- ・3つの常任委員会の審議内容を報告（パワーポイントを使用するとともに資料を配布し、常任委員会の審査内容について、事例を挙げわかりやすい報告に努めました。）

④ 意見交換会

参加の皆さまからのご意見・ご質問等をお聴きするとともに、議会へのご意見については、会場で対応させていただきました。また、市や県に対するご要望については、アンケートにご記入いただいたご意見等と併せて、責任をもって市長に報告するとともに、報告書を作成し、市ホームページやコミュニティセンター、図書館等に配置します。

⑤ 閉会

4. 参加者数とアンケートの結果

市内9会場で373人のご参加をいただきました。

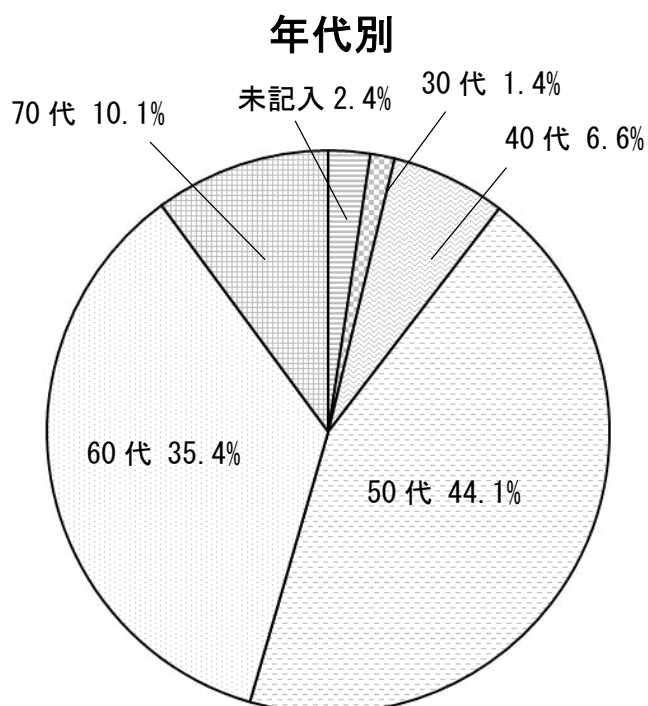
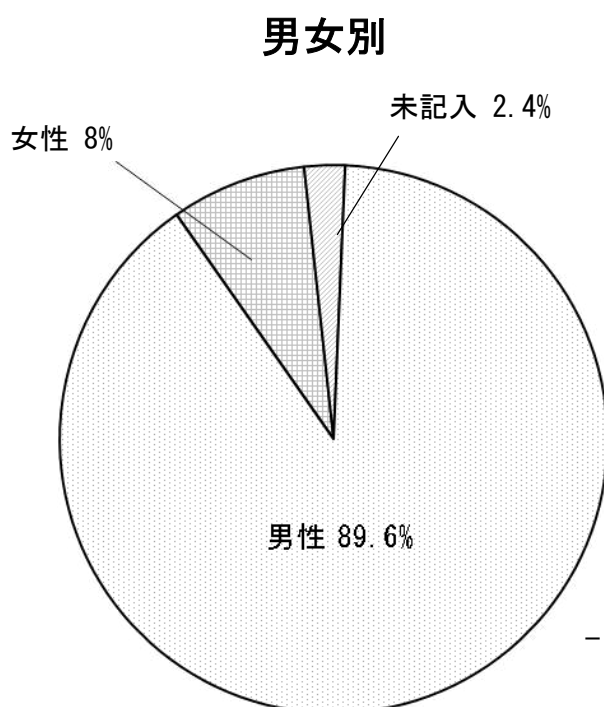
		1 班			2 班			3 班			集 計
		コミセン 蒲生	コミセン 平田	コミセン 八日市	コミセン 玉緒	コミセン 愛東	みすまの館	コミセン 永源寺	コミセン 五個荘	ホール やわらぎ	計
参加者・アンケート数	参加人数	49	19	49	25	41	25	38	44	83	373人
	アンケート回収	45	15	41	22	30	20	32	29	54	288人
	回収率	91.8%	78.9%	83.7%	88.0%	73.2%	80.0%	84.2%	65.9%	65.1%	77.2%

参加者のうち288人の方から、アンケートにご協力いただきました。

(回答率77.2%)

●男女別・年代別

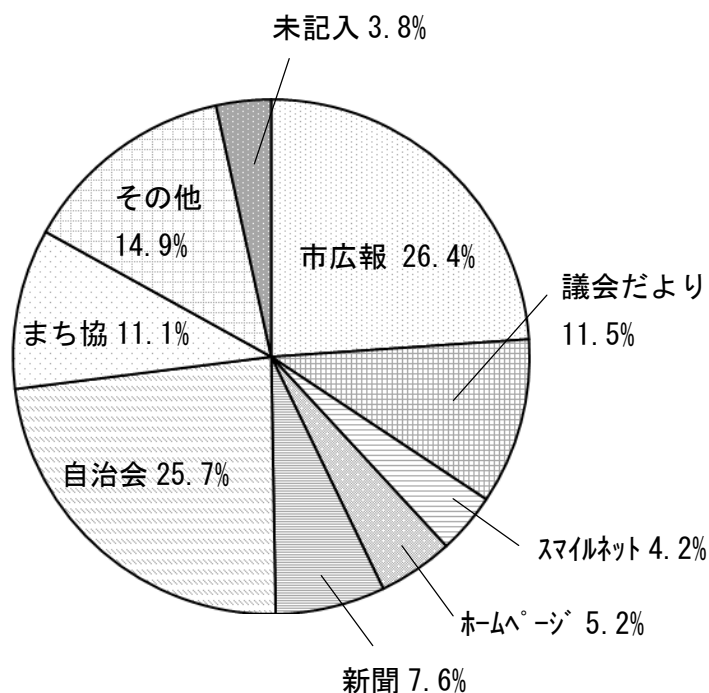
参加者の89.6%を「男性」が占めました。年代別では、「50代・60代」が合わせて79.5%になっています。「女性」や「若い世代」にも市政に関心を持ってもらうことが今後の課題です。



●開催情報は何から知りましたか

「市広報」26.4%、「議会だより」11.5%と紙面での広報の効果が高いことがわかります。今回は、第1回目ということで各自治会の役員の方の参加が多かったと考えています。

広報ひがしおうみ	76	26.4%
議会だより	33	11.5%
スマイルネット	12	4.2%
市ホームページ	15	5.2%
新聞	22	7.6%
自治会	74	25.7%
まちづくり協議会	32	11.1%
その他	43	14.9%
未記入	11	3.8%



●パワーポイントでの説明は

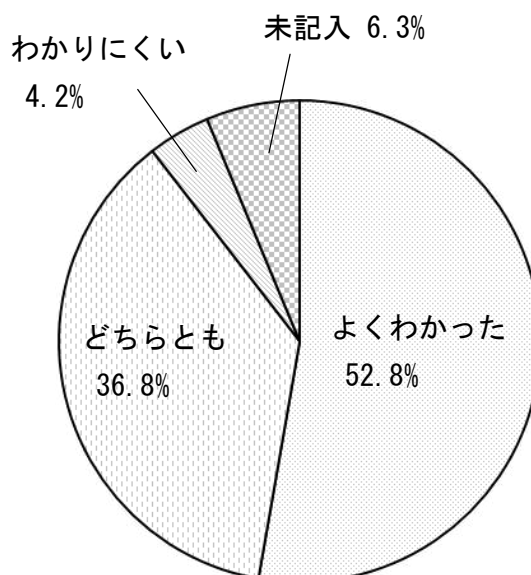
議員手づくりの内容でしたが、高評価をいただきました。今後もわかりやすい報告会にしていきます。

よくわかった	152	52.8%
どちらとも	106	36.8%
わかりにくい	12	4.2%
未記入	18	6.3%

●説明時間は

開催時間を1時間30分としました。アンケートでは、「ちょうど良い」が78.8%と大半を占めました。会場では、もっと意見交換の時間をつくるようにとご意見をいただきました。今後は、もっと意見交換の時間をとるよう検討します。

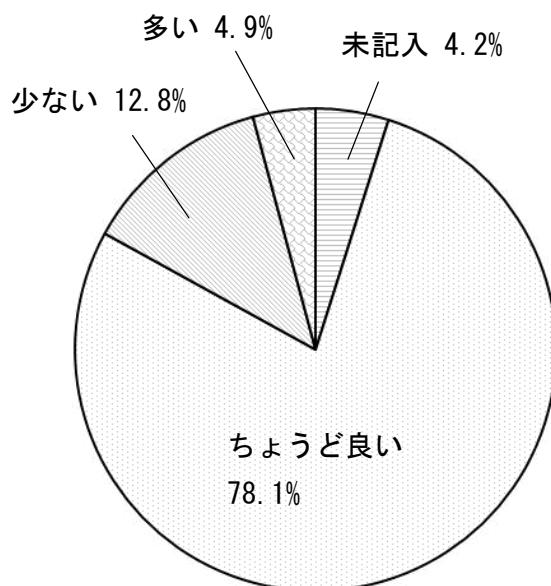
長い	10	3.5%
ちょうど良い	227	78.8%
短い	38	13.2%
未記入	13	4.5%



●配布資料の量はいかがでしたか

「ちょうど良い」と78.1%の方に回答をいただきました。全体的には高評価をいただいたと考えております。

多い	14	4.9%
ちょうど良い	225	78.1%
少ない	37	12.8%
未記入	12	4.2%

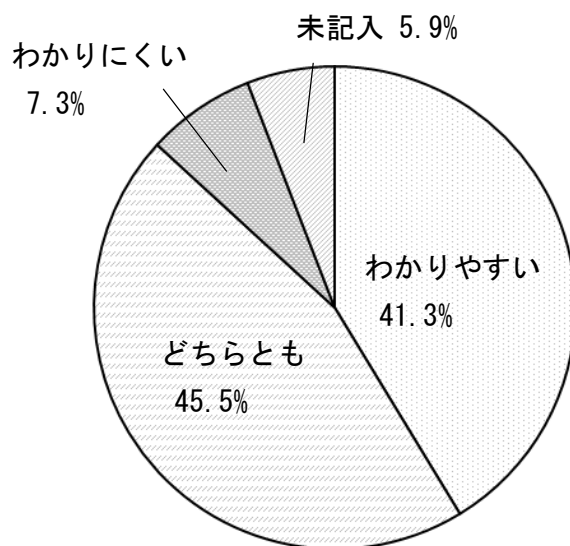


●配布資料の内容はいかがでしたか

パワーポイントの画面資料を配布しましたが、「どちらとも言えない」と答えた方が45.5%と最も多くありました。

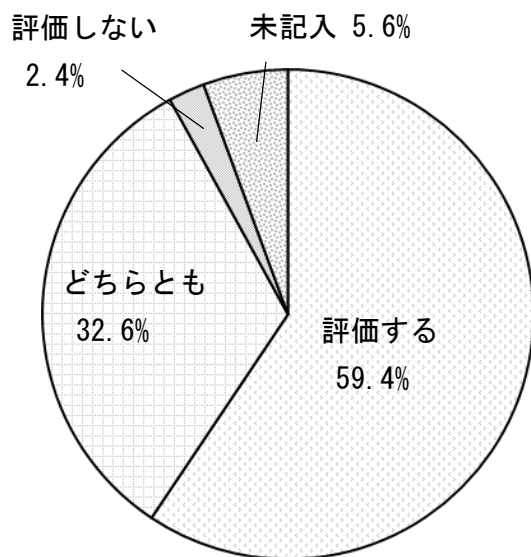
さらに充実した内容の資料配布を検討します。

わかりやすい	119	41.3%
どちらとも	131	45.5%
わかりにくい	21	7.3%
未記入	17	5.9%



●意見交換会の評価は

初めての開催で、進行等も不十分でしたが、59.4%の方から「評価する」といただいております。今後の議会活動に反映するとともに、開かれた議会を目指します。



評価する	171	59.4%
どちらとも	94	32.6%
評価しない	7	2.4%
未記入	16	5.6%

5. 意見交換会でのご意見・ご質問 Q & A

9会場で（アンケート含む）いただきましたご意見・ご質問の中から抽出した事項について、その回答を報告いたします。（要旨をまとめていますのでご了承ください。）

[道路・河川関係]

Q かねてより要望しているが、蒲生幼稚園が移転新築されると多くの車が市子川原町を通り抜け、見通しの悪い市道に入ってくるので、県道に右折レーンを2カ所設置して欲しい。

あわせて、市道のスピード規制をしないと大変危険である。

A 蒲生幼稚園新築後は、送迎ルートを作り、保護者に対して市子川原町自治会内の道路は通行しないことの周知徹底を図っていきたいと考えています。

また、右折レーンの設置は、用地の確保に努め県に要望します。スピード規制は公安委員会に要望し、市としては路面標示等の対応を検討します。

Q 多くの住民が住んでいる長峰地区は、団地内の通行車両が大変多く、道路の新設や改良工事を毎年要望してきたが、どうなっているのか。

A 市道鈴宮川線は、今年度概略設計を行った後、課題等について地元や関係者と協議の予定です。

Q 八日市新川建設予定地へのごみの不法投棄防止対策を。

A 県の管理地であるため、東近江土木事務所に報告し、草刈りおよび不法投棄防止について対応を要請しました。その後、対応する旨の報告がありました。

Q 蛇砂川改修工事の推進と浚渫（しゅんせつ）をして欲しい。また、改修時にバイパス設置はできないのか。

A 毎年、この件については県に要望しており、浚渫は必要に応じて実施されています。また、蛇砂川改修工事に伴うバイパス道路の計画はありません。

Q 都市計画道路 3・3・2 号(小今建部上中線)の工事予定は。

A この路線は、現在、市道建部北金屋尻無線(通称:ひばり通り)から市道八日市芝原線(通称:大凧通り)までの間を、平成 29 年度の完成を目指して事業を進めています。

Q 蛇砂川(八日市新川)合流に伴い、愛知川右岸堤防の補強が必要であるが。

A 県では昨年度、現況堤防や霞堤の機能について現地測量に入り、現在、解析を行っておられます。今後、必要に応じて築堤補強が行われる予定です。

Q 県道外八日市線の名神高速道路に架かる中戸橋に歩道の設置をして欲しい。

A この事業は今年度、県において詳細設計が実施され、中日本高速道路と協議が行われます。

Q 愛東外町地先の県道のバイパス道路はできるのか。また、御河辺橋改修工事の計画はあるのか。

A 両事業とも県が平成24年度に策定した、滋賀県道路整備アクションプログラムに位置づけられました。なお、御河辺橋については県道雨降野今在家八日市線の改良事業のなかで、橋の架け替えも含め計画されています。

Q 垣見隧道について

- ① 跨線橋にして、J R 能登川駅周辺開発を前提に道路建設計画を。
- ② 現隧道は老朽化が進んでいるので歩道利用には反対。カーブ隧道は危険なので直線化を。

A 現道への取り付け位置が限定されることや周辺等に与える影響を考えると跨線橋での整備は困難です。

また、J R 能登川駅周辺の道路は、東口周辺の交通の流れなどを踏まえながら検討します。

現隧道は耐力的に問題がないため、工事費用および工事期間中の市民生活への影響軽減双方の観点から、現隧道を歩道化する計画です。

新たに設ける隧道は、現隧道との離隔距離をとる必要があるためカーブ隧道になりますが、道路構造令に基づき視距確保等もできていますので、安全上の問題はないと考えています。

[教育・子ども子育て関係]

Q 昨年、市から船岡中学校の隣に幼保一体化施設を建設して、平田幼稚園は廃止したいと話があったが、自治連は存続の要望書を提出している。それに対し、議会は「1、2年かけて検討する。」とのことであったが、市から2、3週間前に「何とか考えて欲しい。」と返事があった。

道路も整備されていないし、特に高齢者は徒歩での送り迎えは無理である。市は何の対応策も持っていない。

地域の子どもは地域で育てることが必要であり、同様の施設は平田地区にも市辺地区にも必要であるが。

A 子ども子育て支援事業計画の策定を前提に、平田幼稚園のあり方について、地元関係者の意見をお聞きする場の開催に向け、自治会連合会と話を進めています。

Q 布引運動公園は宝の持ち腐れであり、グラウンドゴルフ場も利用者がもっと増えるようにするためには、食事ができる施設が必要では。

A 布引運動公園の平成24年度の一日あたりの利用状況は、陸上競技場133人、多目的グラウンド72人、グラウンドゴルフ場10人となっています。年間計8万人あまりの方の利用があり、利用率は前年度比、113.3%となっています。

ご意見の社会教育、社会体育施設において食事ができる施設については、現在その運営は民間に委ねており、設置には安定した経営が課題となります。

Q 市内小中学校におけるいじめの発生状況は。

A いじめの疑いのある事案は、昨年度に比べ幾分増加していますが、県派遣のスクールカウンセラーや市雇用のさわやか相談員等を必要に応じて学校に派遣し、教員とともに課題に対処しています。

Q 通学路の安全対策について

須田・安楽寺地区からの通学路で、能登川踏切前に横断歩道の設置を。

種町の通学路にガードレールの設置を。

能登川中学校から小川町地先までの道路整備を。

A 警察署と通学路点検で現地を確認しましたが、見通しの悪い箇所には横断歩道の設置はできないとのことですので、市で横断箇所の前後に交差点注意等の路面標示や看板を設置して、注意喚起を図っています。ガードレールは設置基準に基づき、必要に応じて設置します。道路の幅員基準は、道路の存する地域の形状と道路の種類等により異なります。市道小川林能登川線の小川町地先は、路肩を除く車線が2車線5.5m、歩道3.0mを基本幅員としています。歩道の未整備部分は、設置の検討をしていきたいと考えています。

[地域の活性化関係]

Q 平田村が八日市へ合併して60年。人の集まる施設もなく、雪野山古墳も資料館を作る話があっただけで、ほ場整備で美田、道路は出来たが、それ以外、合併前とほとんど変わっていない。

雪野山古墳が持てはやされたのは一時期であったが、最近はトレッキングブームもあって雪野山は人気が高く、竜王町側には関連施設がある。地元住民も精一杯の努力はしているが、限度があり手助けがないと発展しない。

雪野山周辺の地域にとって、蒲生インターチェンジが出来るのは千載一遇のチャンスであり、インターチェンジと一体的な取り組みが必要である。周辺はほとんどが優良農地となっているが、市は地域発展の将来ビジョンをもつべきであると思うが。

A 平成元年に雪野山古墳が発掘されて今年で25年を迎え、市では発掘された埋蔵品を保存処理中です。

今後は広い市域に存在する古墳群はもとより、聖徳太子ゆかりの万葉文化や木地師文化など、市内各地の歴史・文化とネットワークを形成し、それらを活用した観光まちづくりについて検討したいと考えています。

あわせて、当市には近江商人のふるさともあり、これらを点ではなく線で結んでいくことは、大変重要なことと認識しています。また、蒲生インターチェンジ周辺の土地は、市街化調整区域に位置づけられており、開発行為には一定の制限が設けられていますが、今年度中にインターチェンジが開通することから、地域の活性化に向けた土地利用が図れるように国や県と協議していきます。

Q 多額の予算をつぎ込んで八日市駅前開発をして20年。アピアは、朝は高齢者、夕方は高校生などの集いの場となっているが、空き店舗が目立つことから活用すべきでは。

A ショッピングプラザ・アピアは、核店舗としてのアル・プラザ八日市と地元の商店等が出資した八日市商業開発(協)のアピア専門店街により構成されていますが、いずれのフロアも空き店舗が見受けられます。

現在、両者において新たな事業者を募集されていますが、なかなか出店に結びつかないのが現状です。

市としても、中心市街地の活性化を図るため地元商店主で組織する、まちづくり会社準備会等と連携して、商店街の空き店舗対策とともに対応を検討していきます。

Q 蒲生インターチェンジが開設予定で地域住民は喜んでいるが、蒲生地区の今後の道路事業について、市のビジョンを示して欲しい。

A 蒲生インターチェンジの活用については、東近江市国土利用計画や東近江市都市計画マスタープランでも、インターチェンジの整備による広域交通の利便性向上のインパクトを活かした、産業誘導の土地利用方針を定めています。

また、インターチェンジ近隣の市所有の土地利用については、地域とともに検討していきます。

Q コトナリエ事業の今後の開催方法と支援は。

A 地区イベントについては、すでに支所からコミュニティセンターへ業務が移行されています。コトナリエについては地域最大のイベントであり、コミュニティセンター・自治会連合会・まちづくり協議会等との連携を図ることにより、地域住民を巻き込んだ市民主体のイベントとなるよう協議を行う必要がありますが、支所においても可能な範囲での支援を行いたいと考えています。

なお、コトナリエ実行委員会に地域活性化事業補助金(24年度実績217万円)を交付して、活動を支援しています。

[まちづくり・市民生活関係、その他]

Q 農村下水道の公共下水道への接続に対する地元(受益者)負担と接続路線はどうなるのか。

A 農業集落排水(農村下水道)地区については、合併協議会において受益者負担金を徴収免除することが決定されています。

なお、公共下水道に接続後の新規加入者については、現在、公共下水道事業審議会で、受益者負担金の第9負担区(湖東・愛東地区)において協議いただいております。今年度中に受益者の負担に関する条例の改正を予定しています。

接続路線については、地形等や市の事業計画に合わせて決定されています。

Q 鈴鹿国定公園は観光資源として、林道を整備するなどして自然資源の活用をしながら保全しなければならない。あわせて、ごみの散乱を防ぐマナー向上のルールづくりが必要では。

また、神崎川上流では年間推計数千人の沢登りがあり、水質汚染が始まっているので、規制する必要があるのでは。

A 本市の豊かな自然は、価値ある観光資源のひとつです。しかし、飲食や娯楽で出たごみを持ち帰らないため地元の皆様が心を痛めておられ、このようなマナーを欠いた人が存在することは、大きな課題と受け止めています。

以前から、観光担当課も廃棄物対策担当課と協力してごみの回収を行ったり、不法投棄防止のパトロールを行ったり、要所要所に啓発看板を立てるなどの対策をしており、引き続き来訪者のマナー向上を訴えていきます。

神崎川の沢登りについては、業者による沢登りツアーが企画されており、インストラクター引率のもと、毎年6月～9月の期間で実施されています。

水質汚染はどの程度進んでいるのか、その原因が沢登りによるものなのかなどははっきりしないため、現時点では規制できないと考えます。

Q 永源寺診療所で健康診断を受けられるようにしてほしい。

A 永源寺診療所は健康診査が実施されている医療機関で、がん検診では、大腸がん検診のみ可能です。

なお、市が行うがん検診には、胃、大腸、肺、子宮頸部、乳がんの5種類がありますが、検診の実施は保健センター等で行う集団検診と、指定医療機関で

行う個別検診があります。胃と肺がん検診は集団検診のみで、子宮頸部と乳がん検診は婦人科、外科といった専門医に個別検診を依頼しています。また、大腸がん検診は内科等の医療機関に依頼しています。

今後は、早期に事業実施されるように要望していきます。

Q 市民の声を市長に届ける方法は。また、自治会から市へ意見を伝える機会を作って欲しい。

A 一般的には、ホームページから意見・質問等ができるようにしています。

自治会要望は、自治会長様からの市政に関する要望書を常時受け付け、回答しています。今後は、早期に事業実施されるように要望していきます。

Q 能登川病院は公営、指定管理、民間譲渡のいずれになるのか。また、病棟改修後の106床はすべて稼働するのか。医師の確保は。

A 現在、能登川病院経営検討委員会で議論いただいております。公立、指定管理、民間譲渡などの手法を検討し、できるだけ早い時期に決定する旨の報告をいただいております。同時に現在の経営目標を明確にし、半年毎にその点検・評価を行い、経営改善に資することとしています。

また、病棟は療養環境改善のため5床部屋を4床部屋に改修することで106床になりますが、病床稼働率を高めるには医師や看護師の確保も必要で、まずは医師をはじめとする医療スタッフの確保に全力で取り組みます。

Q コミュニティバス運行の意義と運行コストならびに収益性は。

A 運行の意義は、子どもや高齢者などマイカーを持たない交通弱者の移動手段の確保は必要不可欠で、公共交通空白地をなくすための地域に根ざした生活交通手段であることです。

運行経費および収益率の平成24年度実績は、次のとおりです。

・バス	運行経費	1億4,262万円		
	運賃収入	3,289万円	収益率	23.1%
	角能線含む(愛荘町との共同運行コミュニティバス)			
・デマンドタクシー				
	運行経費	2,650万円		
	運賃収入	31万7千円	収益率	12.0%

6. 各会場の様子



八日市コミュニティセンター



五個荘コミュニティセンター



やわらぎホール（能登川）



みすまの館（湖東）



蒲生コミュニティセンター



愛東コミュニティセンター

編 集：市民と議会の意見交換会運営委員会

委員長：畑 博夫 副委員長：西澤善三 市木 徹

委 員：寺村茂和 村田せつ子 山中一志